

車いすと点字ブロック

伊勢原市立伊勢原小学校

五年

松永 遼介 まつなが りょうすけ

国語の授業で、みんながくらしやすい街にするための学習があった。実際の街の中の工夫を探す宿題があった。お母さんと街を歩いてきた。お店のスロープや、点字ブロックや、外国の地図の坎ばんがあった。

弟は、ふだん、車いすに乗っている。車いすだとスロープは便利だけど、砂利道や少しの段差で押ししたりするのが大変になる。車いすにとって点字ブロックや小さな段差は、一頭がぐらぐらするから、弟に何かえいきょうがないか心配だ。とお母さんが言っていて、初めて知ったからぼくはおどろいた。

どうやってたら解決するのかと思つて、調べてみたら、歩行者ゆうどうソフトマットといふものがあった。それは、点字ブロックと違いでこぼつが無いらしいけれど、視覚障害者が白

杖でたたいた音の違いや、足のうらに伝わる
質感で、ゆうどう路の位置を伝えることがで
きる物だ。だけど、歩行者ゆうどうマットは
視覚障害者の人にとって、でまぼこが無いた
め、使いにくい部分もあるそうだ。

調べてみて、このように視覚障害者と車い
すの人が両方とも完全に使いやすくなること
は、おもしろいと思っただ。

このこと以外にも、赤ちゃん、子ども、大
人、お年寄り、耳の聞こえない人、車に乗る
人、自転車に乗る人、外国人などで、すべて
の人がくらしやすい街にすることは、むずかし
いことがある。でも、がんばって方法を考え
ないといけないんだなと思っただ。